

週刊

明るい小矢部

赤旗 読者通信 改題

2020.10.11 通巻No.1487

日本共産党 小矢部市委員会

市内七社 245  
Tel 67-4322  
Fax 67-4842

何でも  
ご相談を



市議会議員  
砂田喜昭  
Tel 67-4322



衆議院議員  
藤野保史

参議院議員  
たけだ良介

参議院議員  
井上哲士

衆議院議員  
笠井あきら

禁無断転載  
複写配布

9月議会  
砂田市議の  
賛成討論

# 請願 「米価下落防止に国は責任を」

「コロナ禍による需要の消滅と在庫増の影響から米価下落を阻止してほしい」との請願が9月議会で審議され、賛成少数で不採択となりました。砂田市議は国が責任を持って米価下落を食い止めるべきだと賛成討論をしました。その討論を紹介します。

## 世界では農業支援は当たり前

2010年度から導入された農業者戸別所得補償制度では10aあたり1万5千円を補助していた。

これは日本の食糧自給率向上のために、また農地が洪水調節など地域環境を保全する役割に着目して創設されたもので、世界ではヨーロッパ

やアメリカでは当たり前のように広く実施されている制度だ。

フランスでは農家収入の8割、スイスの山岳部では100パーセント、アメリカの穀物農家の収入は5割前後が政府からの補助金だ。

## 農業へ国の責任放棄した安倍政権

ところが安倍政権はこれを廃止してしまい、米の需給調整をはじめ米価安定に対する国の責任も放棄してしまった。いま稲の刈り取りの真最中です。暑い中、クサネムという雑草を手でとる作業に精出している

が、生産費には含まれていないボランテアだ。いまの米価は生産費を償うことができない状態である。このため子や孫に農業を継いでくれとはいえず、農家では後継者問題が深刻になっている。

## 食糧は自国で確保する政策へ転換を

コロナ禍のもと、世界各国では自国民の食糧確保をはじめ自国民の安全を最優先にする動きが当然のように起きている。

日本でも国民生活を維持するために不可欠なものを輸入に頼るやりにする

方を改め、自分の国で生産するようにし食糧自給率向上にしっかりと取り組むべきだ。安倍自公政権のもとで日本農業に対する国の責任を放棄してきたやり方を改める必要がある。

## コロナ禍で需給が崩れる

そこへコロナが襲いかかった。新型コロナウイルスの感染が拡大するなかで、飲食店の営業や旅行の自粛などが広がり、需要が急減。コメの民間在庫が増大している。外食産業、中食産業からの需要が落ち込み、米価下落が懸念される。

## 備蓄米買い入れに 慎重な農水省

農水大臣は備蓄米買い入れを含め何ができるか検討を進めるとは述べたが、農水省は、追加買い入れには、慎重な姿勢を変えず、主食用米として作付けされている今年産米の出荷先を飼料用などに変更するよう生産者に呼びかけている始末だ。

日本共産党は8月4日、農林水産大臣に備蓄米の買い入れ増などを申し入れた。要請では、▽政府備蓄米の買い入れを大幅に増やす▽買い入れた主食用米をコロナ禍で苦境にある国民、学生や子ども食堂に供給する▽非主食用米への転換に際しては、主食用米に見合う転換加算を行う▽戸別所得補償制度を復活する▽国が需給安定に責任を果たすことを明確

要がある。だからこそ、市議会として国に意見書をあげて強く働きかける必要がある。

## 菅政権の日本学術会議への介入に抗議

日本学術会議が推薦した委員のうち6名を菅政権が拒否した問題で、学問の自由に対する介入だと怒りの声が湧き上がっています。憲法をまもる小矢部の会が毎週月曜日に行っているスタンディングアピールでも、5日朝、水島交差点で学術会議人事介入、自民党を許せないとの手書きプラスターを掲げて抗議の意思を表明しました。



5日朝、水島交差点にて

### 県議会

## 「国に米価下落対策を強く要望」

一方、富山県議会は最終日、コロナ禍における米価下落対策を求め

る意見書を採択し、国会及び政府におかれては、(中略)さまざまな対策を講じて米の需給安定に取り組みよう強く要望しました。

### 小矢部市

## 国に農家の実情と苦勞を伝えたくない

### 保守系市議が請願に反対

この請願には保守系市議の全員が反対しました。何故でしょうか。石田議員は反対討論で、JAが米価下落対策に必死にがんばっている、だから国に意見書を出すことには反対」と述べました。